

平成30年度 政策づくり塾

第1回活動報告(開塾式)

5月8日に、第7期目となる政策づくり塾を市民塾生7名・職員塾生5名の合計12名でスタートしました。堤副市長の挨拶に始まり、窪田塾長による講義、グループディスカッションなどを行いました。政策づくり塾は、来年2月下旬まで12回程度の活動を予定しています。

副市長挨拶(要旨)

◆平成27年度から『交流人口300万人・経済人口10万人』都市を目標に掲げ取り組んでいる「舞鶴版地方創生」は、本市の特色ある歴史や文化、自然、そして地域資源を最大限に生かし『心豊かに暮らせるまちづくり』『安心のまちづくり』『活力あるまちづくり』を推し進め、定住人口の減少を抑制するとともに、交流人口の更なる拡大を図り、定住人口10万人に匹敵するまちの活力を実現し、市の持続可能性を高めるもの。

◆平成30年度は、持続可能なまちづくりの実現に向けた総仕上げの年度と位置付け、その実現を確実なものとするため、次の3つの方向性を重要視している。1つ目は「舞鶴版行財政改革の総仕上げ」。2つ目に「新たな財政規律に基づく効果的な事務事業の執行」。3つ目には、この2つの考え方のもと、「多様な連携」と「創意工夫」により、舞鶴版地方創生の実現に向け、これまでから取り組んできたまちづくりの重点事項を推し進める。

◆市民と行政が一体となり、同じ方向に向かって知恵を結集し行動することが求められる。市民塾生には「行政の考え方や施策の進め方にも理解を頂ける次世代の地域のリーダー」になっていたこと、職員塾生には「市民の中に入って地域の課題を見つけ、市民とともに考え、解決に向け積極的に行動する職員」になっていただくことを目的としており、塾は、市民と行政が一体となって積極的に行動しまちづくりを進めることの象徴であると考えている。

◆これまでの先輩塾生の活動の中からは素晴らしいアイデアや事業が生まれた。今年度も若い皆さんの熱い思い、斬新な発想など大いに期待している。



▲副市長と一緒に記念撮影

窪田塾長講義～政策づくり入門～

◆活動のポイント

>行政の「政策」とは、地域に必要なだが自然には手に入らず、民間企業等では供給されないものを供給すること。

>必要性を厳しく見極めること、予算(税金)をなるべく使わないこと、効率性を考える(人員、時間を使わない)ことが重要。

>民間とは異なり効果は調査しないと分からないので、政策の有効性をしっかりと調査し、客観的に評価することが必要。

>政策づくり塾では地域公共活動を実践するが、活動に当たっては、民間・公共の部門を超えたネットワークが必要で、市民塾生と職員塾生が力を合わせてグループワークに取り組むことが重要。

>政策立案能力は正しい知識と経験によりレベルアップする。小さなことでも、こんなことがあれば盛り上がるといったことを考えてみてほしい。



▲熱のこもった講義を行う窪田塾長

グループディスカッション

「舞鶴市の良いところ」をテーマに、3つのグループに分かれてディスカッションし発表を行いました。短い時間の中、それぞれ初対面で緊張しながらも「豊かな自然や美しい景色がある」「(電車の)通勤ラッシュの苦しさがない」「おいしい地場産品がたくさんある」などの意見が出ました。

今後、グループワークを進め、政策を企画・立案し、実践していきます。



▲発表の様子

第2回活動

5月31日(木)18:15～20:15 舞鶴市役所 612会議室

内容:「舞鶴市の地方創生にむけた市の取組について」ほか講義